

ジベレリン処理をしたスギ・ヒノキの 球果と種子の生産量調査をしました

日 時： 令和6年10月～12月

場 所： 香川県森林センター 採種園、試験室

1年前の令和5年夏にジベレリン処理をしたスギ・ヒノキ（特定母樹と少花粉品種）の枝に付いた、球果とその種子の生産量調査をしました。調査の目的やジベレリン処理の様子については、令和6年8月に掲載したスギ・ヒノキそれぞれのレポートをご覧ください。なお、今回の調査結果は香川県森林センターから令和7年度に発行予定の「令和6年度業務報告」に掲載されます。



① ヒノキの球果採取（10月中旬）
特定母樹11系統、少花粉品種4系統



② スギの球果採取（10月下旬）
特定母樹9系統、少花粉品種3系統



③ 球果の手入れ・ゴミとり
（10月下旬）



④ 系統ごとに球果の個数と重さを
記録（10月下旬）



⑤ 球果を室内で乾燥させる
（10月下旬）



⑥ ヒノキ球果から種子を取り出す
（11月上旬）



⑦ スギ球果から種子を取り出す
（11月中旬）



⑧ 系統ごとに種子の重さを記録
（11月中旬）



⑨ 発芽試験の準備（11月下旬）
系統ごとに100粒4セットを作る



⑩ 湿らせた濾紙を敷いたシャーレに
100粒ずつ蒔いて、温度や照度等
を一定に保つ装置に入れる



⑪ 種子の長さ以上に根が伸びた状態
を発芽として週に3回記録
（スギは28日間、ヒノキは21日間）



来年度の調査に向けて、令和6年夏に
ジベレリン処理をしたスギ雄花の着生
量調査を1月下旬に実施しました。
（ヒノキの調査は3月下旬に予定）

（香川県森林センター 林業普及指導員）